

看護学雑誌第 62 巻総目次

1998 年 1-12 月

(表示は、題名：著者名、号数、開始ページ)

●特集

看護系大学の今

- [対談]看護系大学の現在と未来——私たちが目指す看護学教育：樋口康子・黒田裕子，1，14.
大学における思考能力のトレーニング——気づき，判断し，創る看護のために：黒田裕子，1，19.
大卒ナースの受け入れを振り返って：古庄富美子，26.
大学へいきたいと願うあなたへ——看護系大学という資源を使いこなすコツ：中西睦子，1，31.

院内感染の“なぜ”が知りたい

- 院内感染の“なぜ”が知りたい：佐竹幸子，1，118.
病院の中でなぜ Compromised host が生まれるのか：萩原将太郎，2，119.
抗菌薬がなぜ効き，なぜ効かなくなるのか：佐竹幸子，2，124.
細菌検査レポートの読み方：佐竹幸子，2，128.
スタンダードプリコーションの背景にある考え方：源河いくみ，2，134.
日本の病院の不思議な光景——これからの感染管理に向けて：佐竹幸子，2，138.

“急性期包括化”の流れを追う——医療保険改革の中で看護は

- 医療費支払い方式のこれまでとこれから：野村陽子，3，215.
[対談]看護にとっての出来高払いと包括払い：奥村元子・山口悦子，3，221.
急性期包括払いの現状と今後の看護の役割：松月みどり，3，227.
老人医療の包括払いは現場をどう変えたか：千田徳子，3，232.
看護の必要度と看護量の関係を探る——包括的支払い方式における看護業務量測定に関する研究に参加して：嶋森好子，3，237.

情報ネットワークを活用する

- 情報ネットワークを利用したセルフヘルプグループの運営——「障害児と働く母親ネットワーク」おや同士のつながりを求めて：岩本聖子，4，310.
企業が運営する医療者向け情報ネットワーク——

Medical Profession の場合：鈴木吉彦・吉永意知子，4，316.

「わくわくナースねっと」の活用法：柳田征宏，4，321.

厚生省ホームページと「情報」公開：杉山克己，4，325.

ホームページで広がった私の看護：櫻井栄子，4，330.

地域医療における情報ネットワークの活用——始まったサイバークリニックの取り組み：太田秀樹，4，334.

病院情報システムの新潮流 電子カルテのこと：阿曾沼元博，4，339.

神奈川県における保健福祉情報ネットワーク：大関晃一，4，343.

看護管理者って何だろう

[匿名座談会]現場のナースが語る——私にとっての看護管理者，5，422.

[対談]管理者からスタッフへ——私たちが語りたいこと：宮下多美子・江口隆子，5，430.

婦長の仕事，婦長の気持ち：栗原知女，5，436.

管理者は発想の転換を求められている——成果責任中心の戦略思考：松下博宣，5，442.

臨床シナリオで学ぶ——急性期呼吸理学療法

第1章 EBM としての急性期呼吸理学療法：宮川哲夫，6，510.

第2章 臨床シナリオで学ぶ——急性期呼吸理学療法 外科手術・胃切除：森川亘，6，517.

慢性呼吸不全の急性増悪時：宮川哲夫，6，521.

喘息重積発作の場合：宮川哲夫，6，528.

急性心不全に伴う呼吸不全：加藤久美子，6，531.

体位に関すること：森川亘，6，533.

第3章 臨床への導入を考えるナースへ：加藤久美子，6，536.

患者とともに進める痛みのケア

患者の“物語”に参加するということ——痛みからの解放は可能か：内藤いづみ，7，606.

痛みの看護的アプローチ——患者の主体的参加を促すかわり：岡田美賀子，7，613.

簡易 PCA 装置を使った痛みへの看護——看護基準を
作成して：吉田富子・森由美・早川司子，7，617。
痛みの訴えをどう受け止め，理解するか：柏木公一，
7，622。
セルフケアを重視した慢性関節リウマチ患者の痛みへ
のケア：竹下礼子，7，627。
痛み経験から見えてくること——英国での患者体験か
ら：笹川寿美，7，631。

入浴をみなおす

看護ケアとしての入浴をみなおす——日本人の入浴文
化を考察する視点から：坂田三九，8，710。
安全な入浴ケアのための生理学的判断指標と入浴援助
基準——心筋梗塞患者の場合を中心に：寺町優子，
8，715。
入浴動作の基本と条件整備：河添竜志郎，8，722。
入浴をあきらめないための福祉用具選定のコツ：窪田
静，8，731。
お風呂が患者と看護婦にもたらしたもの：宮下多美子
・松橋久美子・島崎初美・中村忍，8，738。
生活を重視する観点から浴室改造に取り組んで：松下
明美，8，744。

快適排泄ケアのためのワンポイントアドバイス

[対談]ふりかえろう，排泄ケアの心とワザ：大島弓子
・野崎祥子，9，814。
正常な排泄と排泄トラブル：西村かおる，9，820。
快適排泄ケアのためのワンポイントアドバイス
①患者の心理に配慮した排泄ケア：川島みどり，9，
824。
②排泄行動の自立へ向けた排泄パターンのつかみ方：
野崎祥子，9，827。
③便秘に効く体操・マッサージ・つば刺激：河井啓
三，9，830。
④失禁のある人の骨盤底筋体操：野崎祥子，9，833。
⑤排泄行為を助ける用具の選定：牧野美奈子，9，
836。
⑥便秘薬・浣腸の種類と有効な使い方：河井啓三，9，
839。
⑦失禁にともなうスキントラブル対策と予防法：駒崎
すみ，9，842。
⑧患者のQOL向上を考えた排泄援助方法：今丸満
美，9，845。

異なる職種との対話——その時互いに何を考えたか

自然治癒力を高める栄養への取り組み——栄養士と看
護婦の連携がもたらすもの：中村丁次・宮下多美
子，10，914。
薬の効果を高める薬剤師と看護婦の役割分担：太田久
美子・佐々木千香子，10，921。
使える資源を存分に生かすには——ソーシャルワカ
ーと看護婦の情報共有：荷見千草・柴陽子，10，

927。

日々の看護をリハビリにつなげるには——理学療法士
と看護士の協力：齋藤慎也・藤原敏志，9，933。
他職種との連携の現在——4つの対談から：福井幸
子，10，938。

服薬の行動科学——「指導」から「援助」へ

この特集の読み方・使い方——慢性疾患の「服薬」をと
らえ直す視点：堀成美，11，1010。
服薬「指導」から服薬「援助」へ——「抗 HIV 薬の効果
的な服薬援助のための検討会」の到達点：乃村万里，
11，1011。
服薬の行動科学——コンプライアンス／アドヒアラン
ス，コミュニケーション：堀成美，11，1017。
社会的認知理論に基づく服薬援助の実践：村上未知
子，11，1024。
服薬の確立が難しかった一症例——抗 HIV 薬の服薬
援助への課題：大内桂子・堀成美・有馬美奈・柴野
恭子，11，1028。
服薬援助のためのリソース：鈴木祐見子，11，1031。
服薬援助のためのアクションプラン——自らの気づき
を全体に生かすために：清水恵，11，1037。
「指導」から「援助」へ——他職種からの提言：今村顕史・
山下博民・山本博之，11，1041。

変わる医療事故の概念とその対策——リスクマ ネジメントの視点から

[対談]これも「事故」？——広がる事故の概念：増子ひ
さ江・森佳代子・青木英子・町田美幸，12，1114。
リスクマネジメント——これまでの事故防止の取り組
みとはどう違うか：鮎澤純子，12，1121。
リスクマネジメントが求められる医療を取り巻く状況
——医師の立場から：川村治子，12，1127。
私たちの「事故」に対する問題意識とそれに基づくシス
テム改善：井上加野，12，1132。
“命さえ助かれば…”を越えるもの——私の乳癌体験
から：俵萌子，12，1139。

●特別記事

医療機関におけるセクシュアル・ハラスメント
ナースに知ってほしいこと：田中早苗，1，36。
看護 110 番の事例から問題を考える：井上久，1，
41。
臨床試験における看護婦のかかわり（前編）臨床試
験を理解する：新美三由紀・国井由生子・斎藤裕子
福田治彦・大橋靖雄，1，45。
看護における臨床・研究・教育の統合——茨城県立医
療大学の取り組み：野々村典子，1，52。
臨床試験における看護婦のかかわり（後編）看護婦
に求められる役割：斎藤裕子・国井由生子・新美三
由紀・福田治彦・大橋靖雄，2，142。
看護介入の手段としてのアロマセラピー：高谷真由
美，2，147。

リハビリテーション科の診療に看護婦を！——リハビリテーション科医からの提言：椎野泰明，3，241.
看護情報ネットワークは未来の看護になくてはならないものです：中木高夫，4，350.

リハビリスタッフの病棟配属制と看護の関係：増田千恵・田元孝子・寺山みのり・片山裕美子・田村キミ子，4，356.

[特別座談会]抑制廃止への道のり①：吉岡充・田中とも江・志方弘子・蓑田文子・今林恵美子・大平睦子・占部京子・新田克代，6，538.

[特別座談会]抑制廃止への道のり②：吉岡充・田中とも江・志方弘子・蓑田文子・今林恵美子・大平睦子・占部京子・新田克代，7，636.

低ADL（高齢）患者に対する腹臥位療法のすすめ——老人医療費削減の今だからこそ：有働尚子，7，642.

クリティカルシンキングの能力向上のために：ロザリンド・アルファロールフェーブル，8，748.

専門学校卒業者の大学編入学の道，開かれる：大室律子，9，848.

看護職人気の裏にひそむもの——今，なぜ高校生は看護職を目指すのか：田口正男，9，854.

“ギャップ”を埋めるのはだれか？——国際エイズ会議に参加して考えたこと：堀成美，10，942.

[対談]寝たきりを防ぎ・直す全人的アプローチ①腹臥位療法と音楽運動療法の実践から：有働尚子・川島みどり，11，1046.

看護に生かす被害者学・被害者援助論：板垣喜代子，11，1052.

[対談]寝たきりを防ぎ・治す全人的アプローチ②腹臥位療法と音楽療法の実践：有働尚子・川島みどり，12，1142.

欧米諸国における医療・福祉関連職種の役割分担の見直し——看護職を中心に，12，1148.

来日したベナー氏からの学び——12年目の私の課題にどう答えてくれたか：山下満子，12，1156.

●このひと'98

小中節子さん／日本臓器移植ネットワーク近畿ブロックセンターチーフコーディネーター，1，1.

松村明美さん／労働福祉事業団総合せき損センター看護婦，2，105.

今井俊子さん／「新樹の会」代表，東京女子医科大学看護短期大学，3，201.

櫻井栄子さん／訪問看護ステーション「やさしい手」勤務，4，297.

清水千世さん／財団法人慈山会医学研究所附属坪井病院ホスピス病棟婦長，5，409.

加藤久美子さん／ネルコアピューリタンベネットジャパン(株)クリニカルサポート課，6，497.

三原由美子さん／医療法人鉄蕉会・亀田クリニック看護部，7，593.

山内豊明さん／大分県立看護科学大学看護アセスメン

ト学助教授，8，697.

大森邦子さん／コスモス女性クリニック看護婦，9，801.

木村ひでみさん／東京海上メディカルサービス(株)メディカルリスクマネジメント室主任，10，901.

キャシー・パウワーさん／Center for Case Management，11，997.

小田原弘子さん／老人保健施設くろさき苑療養棟婦長，12，1101.

●グラフ

実践の科学としての看護の確立を目指して臨床と教育・研究の統合を図る——茨城県立医療大学と附属病院を結ぶユニフィケーションの取り組み，1，2.

人工呼吸器は患者さんの身体の一部，責任をもってケアしています——呼吸療法認定士の資格を取得し活躍する看護職たち——国立療養所刀根山病院，2，106.

質の高い日常ケアで患者の障害受容過程を援助する——脊損医療の最前線で看護の専門性をみる——労働福祉事業団総合せき損センター，3，202.

母乳育児の推進と完全母子同室——「赤ちゃんにやさしい病院」の助産婦たち——国立岡山病院，4，298.

患者さんの意思を重視した手づくりのホスピスケア——緩和ケア病棟を在宅ホスピスの後方病棟として位置づける坪井病院の取り組み，5，410.

“気づく”ことと“創る”こと——救命救急の最前線で看護独自の機能を見る——聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院救命救急センター，6，498.

未来を担う子どもたちの健やかな成長にかかわる一員として——いのちをあずかる保育園で働く看護職の1日——世田谷区立経堂保育園，7，594.

生活ケアに視点を広げる訪問看護——「だんけ訪問看護ステーション」の地域医療活動，8，698.

HIV/AIDSに携わる医療専門職の質的向上をめざす研修活動——国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター，9，802.

転ばぬ先の杖 大盛況の転倒予防教室——東京厚生年金病院健康管理センター，10，902.

がんを受け入れ生きいきと過ごしたい——ボランティアとがんの子どもたちのキャンプ活動，11，998.

生あるかぎりいきいきと——理想の老人医療を求めた，みさき病院のいま，12，1102.

●道拓かれて——戦後看護史に見る人・技術・制度：川島みどり

⑬看護提供方式の移り変わり——機能別からプライマリナースングまで，1，90.

⑭人間として看護婦として——めざめ，2，182.

⑮人間として看護婦として——たたかい，3，272.

⑯ニッパチからナースウエーブへの軌跡，4，388.

⑰アメリカ看護の影響——占領下から現在まで，5，470.

- ⑮技を伝える——国分アイの場合, 6, 578.
- ⑯病院から在宅へ——下町の訪問看護から, 7, 684.
- ⑰新しい看護のパイオニアたち——創造的実践とベンチャーマインド, 8, 782.
- ⑱極限状況下でのチーム医療——平和を語り継ぐ, 久松シノノ, 9, 882.
- ⑳しなやかにしたたかに看護の灯を——厚生省看護課, 10, 974.
- ㉑傾聴・分析——職能団体の自律と成熟への道, 11, 1082.
- ㉒戦後の看護研究の軌跡から——新しい時代に向かう研究をめざして, 12, 1182.

●臨床で研究に親しむ：金井 Pak 雅子

- ⑬物事の状態を表し, 比較する尺度のいろいろ, 1, 94.
- ⑭集めたデータをどのように表すか, 2, 186.
- ⑮偏差値を求めてみよう, 3, 276.
- ⑯患者指導プログラムの有効性を確かめる—— t 検定を用いて①, 4, 392.
- ⑰患者指導プログラムの有効性を確かめる—— t 検定を用いて②, 5, 474.
- ⑱平均値によらず 2 つのグループを比較する—— X^2 検定, 6, 582.
- ⑲2 つのグループの数値の関連を調べる, 7, 688.
- ㉑3 つ以上のグループの平均値を比較する方法——一元配置分散分析法を用いた分析, 8, 786.
- ㉒1 つの事例から研究を進める, 9, 888.
- ㉓質的研究は臨床看護婦に与えられた特権, 10, 978.
- ㉔研究を行なう際の倫理的問題を考える, 11, 1086.
- ㉕研究報告書をまとめる, 12, 1188.

●看護を支えるもう1つの“知”——現象学と状況論的認知：行岡哲男

- ⑦現象学的アプローチの陥穽を飛び超えて——“実践世界”そのものへ, 1, 14.

●はっ！おやっ？ウーム…From MSW：村上須賀子

- ④介護問題と夫婦, 家族, 1, 97.
- ⑤科学技術の発達は何のため?, 2, 153.
- ⑥新しい時代の幕開け——精神保健福祉士 (PSW) 法成立, 3, 251.
- ⑦学び合う関係 (その 1), 4, 397.
- ⑧娘の巣立ち, 5, 455.
- ⑨学び合う関係 (その 2), 6, 555.
- ⑩“ネット”を創る, 7, 679.
- ⑪熱い思い, 8, 763.
- ⑫異職種間のコミュニケーション, 9, 887.

●早期退院に取り組む

- ①「病院の人」を「社会の人」へ：畠中智代, 1, 72.
- ②入院時より, 在宅生活を考えたチームアプローチ

を：熊谷亜希子, 2, 168.

- ③退院を阻む要因を取り除く支援：岡本典子, 3, 263.
- ④精神科における早期退院とは？——私的精神科病院の取り組み：西豊子, 4, 374.
- ⑤看護で選ばれる病院をめざして：市来久子, 5, 462.
- ⑥質の高い看護の結果としての早期退院をめざす：加藤千穂子, 6, 560.
- ⑦看護部主導の入退院管理をめざして：粉川ユリ子, 7, 666.

●老人を見る

- ①病院で老人を見るナースたち——初富保健病院, 1, 76.
- ②痴呆ケアの新境地を拓く 病院における「グループホーム的ケア」の実践——上川病院, 2, 172.
- ③老人病院で老人看護の専門性を考える——西円山病院, 4, 378.
- ④病棟にとけこむレクリエーション活動——霞ヶ関中央病院, 6, 566.
- ⑤痴呆性老人の「回想法」グループ活動——その人らしさを引出しケアに役立てる——大宮共立病院, 7, 670.

●ケアのための病態生理学：竹中文良

- ①消化器 (1) 食道, 1, 58.
- ②消化器 (2) 胃①, 2, 158.
- ③消化器 (3) 胃②, 3, 252.
- ④消化器 (4) 小腸, 4, 364.
- ⑤消化器 (5) 大腸, 5, 448.
- ⑥消化器 (6) 肝胆脾①・肝臓, 6, 548.
- ⑦消化器 (7) 肝胆脾②・胆嚢・脾臓, 7, 654.
- ⑧呼吸器, 8, 768.
- ⑨泌尿器系, 9, 867.
- ⑩循環器, 10, 958.
- ⑪脳神経系, 11, 1068.
- ⑫内分泌系, 12, 1166.

●Clinical Ethics——臨床倫理について考える

- ①[インタビュー]私たち臨床家にとって倫理とは：石垣靖子, 1, 66.
- ②臨床倫理とは何か (その 1)：浅井篤・福井次矢, 2, 164.
- ③臨床倫理とは何か (その 2)：浅井篤・福井次矢, 3, 258.
- ④医療現場における倫理問題の考え方 (その 1)：清水哲郎, 4, 370.
- ⑤医療現場における倫理問題の考え方 (その 2)：清水哲郎, 5, 456.
- ⑥臨床倫理における看護職能団体のかかわり——アメリカ看護婦協会「倫理と人権センター」前ディレクター Colleen Scanlon さんに聞く, 6, 556.

- ⑦北里大学病院における看護倫理委員会の活動①：小島恭子，7，661.
- ⑧看護倫理委員会の活動の実際②：小島恭子・家永登，8，775.
- ⑨患者の権利を擁護することで生じるジレンマ——聖路加国際病院医療倫理委員会の活動から：南由起子，9，874.
- ⑩現場主導の倫理委員会活動へ——看護部の果たす役割：高嶋妙子，10，966.
- ⑪水島協同病院における医療倫理委員会の活動：塩見元子，11，1076.
- ⑫東札幌病院臨床倫理委員会の活動：資口恵子，12，1173.

●教えて！さいきん気になるあのコトバ

- ①クリティカルシンキング：牧本清子，1，80
- ②ナーシングインターベンション：中木高夫，2，176.
- ③フィジカル・アセスメント：笹鹿美帆子，3，268.
- ④フォーカスチャーティング：川野雅資，4，383.
- ⑤アサーティブネス：勝原裕美子，5，466.
- ⑥退院計画：堀越由起子，6，572.
- ⑦クリティカルパス：菅田勝也，7，674.
- ⑧看護の質評価：岡谷恵子，9，878.
- ⑨アドボカシー：武井麻子，10，970.
- ⑩EBM；Evidence-Based Medicine：福井次矢，12，1178.

●クリティカル・パス 現在の焦点：阿部俊子

- ①クリティカルパスとは何か，6，544.
- ②成功の鍵——ケースマネジャーに必要なもの，7，650.
- ③個別的ケアへの対応，8，764.
- ④慢性疾患，長期療養とクリティカルパス，9，863.
- ⑤クリティカルパスと看護記録，10，952.
- ⑥世界に広がるクリティカルパス——Dr.Bower のインタビューから，11，1064.

●家族の肖像：柳原清子

- ①コーヒー牛乳，8，760.
- ②ドライブ，9，859.
- ③ある選択，10，948.
- ④写真展，11，1060.
- ⑤1人ばっちじゃあない，12，1162.

●買いたい新書

- ④⑨『医療現場に臨む哲学』——現場で、当事者と対話し共に考えることがすべての始まり：高橋幸枝，1，98.
- ⑤⑩『われわれはなぜ死ぬのかー死の生命科学』死を生きる：杉原陽子，2，194.
- ⑤⑪『カルテは誰のものか——患者の権利と生命の尊厳』——この問いにあなたはどうか答えるだろうか：

磯野富美子，3，290.

- ⑤②『エイズとソーシャルワーク』——保健医療ソーシャルワークの広がり可能性、そして課題：杉山克己，4，402.
- ⑤③『車いすでカリフォルニア』——すべての人に暮らしやすい社会とは——自立と相互理解を自然体で語る滞在記：片山千栄，5，490.
- ⑤④『インフォームド・コンセント実践学』——総合科学としての医療の確立が必要：一戸真子，6，586.
- ⑤⑤『星子が居る一言葉なく語りかける重複障害の娘との20年』——「障害」からみる社会——他の人をわかることはできないという意識をもつこと：足立朋子，10，982.
- ⑤⑥『清水義範の作文教室』——「遺伝子に合わせて指導する」——小学生から学ぶ：横井郁子，11，1090.

●プッツン看護婦物語：ドレーン花子と日本の看護をよくなる会[®]

- 寿命が縮まるゾゾゾな出来事の第89話，1，102.
- 激務の中のオアシス。あ～幸せ～の第90話，2，198.
- “忍の一字”で乗りこえますの第91話，3，294.
- あなたに、も～くぎづけ！の第92話，4，406
- そんなのって、あり??の第93話，5，494.
- 我らさすらいの渡り鳥の第94話，6，590.
- 奇人変人大集号!!の第95話，7，694.
- ナースも人の子。好みだってそりゃでるさの第96話，8，798.
- これってほんとに効率い～んですか？の第97話，9，898.
- 院内にみる人生の摩訶不思議の第98話，10，994.
- ヒラには見せない涙もあるさの第99話，11，1098.
- なぜ？ってそれはそうゆうきまりだから…の第100話，12，1200.

●BOOK REVIEW

- 『クリティカル・シンキングを基本とした看護診断プロセス』Idonia Cox Collier, Kathryn E. McCash, Joanne Marino Bartram 著，藤村龍子監訳：江川隆子，1，35.
- 『ケアマネジャー実践ガイド』イギリス保健省原著／白澤政和・広井良典・西村淳訳・著：中島紀恵子，4，363.
- 『看護に役立つ病気の事典』レイ・ラングフォード，ジュン・M・トンプソン著，飯田喜俊監訳：中木高夫，5，461.
- 『実践の場で生かす看護関係法規』岩崎榮監修，嵯峨清喜・高木和江編集：重村淳子，5，479.
- 『脳の痛み 心の痛み——慢性痛からの解放をめざして』北見公一著：林公子，7，635.
- 『看護診断にもとづく痛みのケア』岡崎寿美子編著：大橋富士子，8，759.
- 『夢にかけた男たち——ある地域りハの軌跡』河本のぞみ・石川誠著：川島みどり，9，853.

『いきいきザ老人ケア』高口光子著：近森美美子，10，947。
『看護ケースマネジメント—クリティカルパスウェイと実践の評価』矢野正子・菅田勝也監訳：栗屋典子，10，957。
『精神看護学ノート』武井麻子著：小川典子，11，1045。
『いきいきケア選書——もっとアドリブケア』中田光彦著：村上廣夫，12，1161。
『真の公的介護保障をめざして』日本福祉大学社会福祉学会編：二本立，12，1193。

●JN 通信

准看養成停止，移行教育の早期実現を求める動き高まる，2，154。
准看問題で厚生省に2つの検討会発足へ——厚生省，日本医師会，日本看護協会が合意へ，3，246。
“厚生省検討会発足”を読む——准看養成停止に向けて日看協の奮闘を望む：水巻中正，3，247。
厚生省，2つの検討会設置を発表 初会合開催へ，5，489。
NANDA25周年記念大会行なわれる——第13回看護診断分類会議開催：木村義，7，680。

●JN Essay

看護婦としての母と雑誌の中で出会って：深川真由美，8，756。

●研究と報告

体験記から抽出したターミナルケアの心理学的特質：谷丘哲也・中石忍・尾立真紀・小平さち子・奥田る

み・石川重雄，2，190。
男子看護者のかかえる問題：百田武司・鈴木正子，3，280。
消化器疾患患者の口腔内の乾燥・舌苔・口臭の改善の試み——10%ハチミツレモン水による含嗽：野田和子・披田野貴美・長谷川礼子・水野惟子・斉藤由紀・姉崎ミツエ，3，284。
『大地』における痴呆性老人——幸福なボケ方：高橋正雄・松田修，4，398。
視力障害患者自立援助の再検討——移動表示の検討を中心に：今辻智子・前田雅子・吉村美穂子・松下清子・松元佳及里・樺山千和子，5，480。
視力障害患者のデイルームにおける食事に対する意識調査：澤田智恵子・秋川敦子・佐藤雅子・奥原芳子，5，484。
がん患者の悪臭に対する各種消臭剤の消臭効果について：上坂美有・木下夏子・河村圭・大西玲子，9，892。
予防に向けた転倒・転落事故の要因に関する調査：畔上一代・大沢千春・貝津禎子・中橋春美・永井洋子，10，984。
ボケからのカムバック：増田末知子，10，988。
内観療法を試みた難治性うつ病患者の一例：古川清美・寺尾岳，11，1092。
看護理念の持ち主・トルストイ——『戦争と平和』と『アンナカレーニナ』より：高橋正雄，12，1194。

●言いたいフォーラム

1，100/2，196/3，292/4，404
5，492/6，588/7，692/8，796
9，896/10，992/11，1096/12，1198

NURSING BOOK INFORMATION

医学書院

市場原理に揺れるアメリカの医療

李 啓允

●A5 頁200 写真18 1998
定価(本体2,200円+税) ¥400
[ISBN4-260-13846-4]

『医学界新聞』に好評の連載が一冊の本になった。マサチューセッツ総合病院に勤務する筆者が、豊富な情報と交友関係、自らの経験をもとに、市場原理による米国のマネージド・ケアの仕組みを紹介、その光と影を伝える。わが国のこれからの医療の方向を示唆するとともに、医療者はいかに行動すべきかを考えさせる好著。

在宅看護への道 — 起業家ナースの挑戦

編集 村松 静子
著 村松 静子・守田美奈子・松沼瑠美子

●A5 頁156 図1 表1 1998
定価(本体1,800円+税) ¥400
[ISBN4-260-34327-0]

看護教師と有志看護婦がボランティアで始めた在宅看護。それが日本で初の看護婦による在宅看護サービス会社「在宅看護研究センター」の設立へと発展し、訪問看護ステーション制度のモデルになろうなどと誰が想像しただろうか。在宅看護の難しさとその奥深さに魅入られ、起業家への道を選んだパイオニア看護婦の成長の軌跡をたどる。